

消防ヒヤリハットデータベース事例回答シート

【事故概要について】



1. 事故・ヒヤリハットの別	ヒヤリハット
2. 体験した事例の名称	タンク車をドライブレンジのままサイドブレーキのみで停車し作業を開始したため、車両が前進した。
3. 体験した事例の中心的要素	車両を駐車する際、たとえサイドブレーキをひいていてもドライブに入ってしまえば車両は前進してしまうという意識が足りなかった。また、早く車両を駐車させ次の行動に移行したいという気持ちがあった。
4. 体験した事例の原因・理由	駐車に対する注意不足や車両そのものに対する不慣れにより順序だった手順の流れが確立できていなかった。次の行動へ急いで移行したいという気の焦りがあった。

【体験した事例の直接的原因について】



1. 体験した事例の直接的な原因	行動の実行に問題があった。
------------------	---------------

【体験した事例について】



1. 発生日時	平成27年12月8日 午後3時頃
2. 発生した当時の天候	晴れ
3. 発生した活動現場	屋外：比較的交通量は少ないが抜け道として利用されている車線のない市道上
4. 体験した事例の種類	回答者が、他人を負傷させそうになった。
5. 事故の程度(ヒヤリハットの場合、仮に負傷したときの程度)	死亡していた(させていた)だろう
6. どのようなことが起きたのか(起きそうになったのか)	転倒、(機器等)巻き込まれ、はまれ、交通事故
7. 事例体験時の活動	警防調査
8. (7の活動中)どのような作業中に発生したか	その他：車両を道路上に停車させ、体勢を変えて調べものをしようとした際
9. 同様の体験は、これまでにどの程度の頻度で体験していますか。	初めて体験した

10. ヒヤリハット体験当事者の属性（回答者は当事者A）



○当事者A	年齢[21]歳、勤続年数[3]年、現場経験年数[3]年、階級[消防士] 同様の活動〔初めて〕、任務〔機関員〕
○当事者B	年齢[47]歳、勤続年数[24]年、現場経験年数[12]年、階級[消防司令補] 同様の活動〔初めて〕、任務〔車長〕
○当事者C	年齢[41]歳、勤続年数[22]年、現場経験年数[20]年、階級[消防士長] 同様の活動〔初めて〕、任務〔隊員〕
○その他(当事者が4人以上の場合)	

11. 事例発生の経過。



	誰が(何が)	なにをした	その他・備考など
経過1	当事者A	警防調査内容の詳細を確認するため、車両を安全な場所に停車させた。	
経過2	当事者B	車両停止位置の確認と機関員の行動を監視中であった。	当事者Bが聞き取り者 以下経過4.7.8.9は同じ
経過3	当事者C	警防調査を開始するため、車両から下車はじめた。	
経過4	当事者B	車両が動きだしていることに気付き停止させるように指示した。	
経過5	当事者C	車両から下車しその場を離れたため、特に気付いていない。	
経過6	当事者A	ブレーキを踏んで車両を停止させた。	
経過7	当事者B	当事者Aに現状を確認した。	
経過8	当事者A	当事者Bに状況を説明した。	
経過9	当事者AB	事の重大さを確認し合った。	
経過10			
経過11			
経過12			

【その事例発生時の状況について】



○事故の場合：事故が起きたのはどうしてだと思うか？

○ヒヤリハットの場合：ヒヤリハットで済んだのはどうしてだと思うか？

周囲の視界が確保できていた。指揮者が適切に指示した。後方からの監視の目が行き届いていた。他隊(員)との連携活動がうまくいった。他隊(員)から適切な注意を受けた。たまたま、事故にならなかった。その他：機関員教養中であったため、特に注意を払っていた

○心理・体調について

a. あせりを感じていた

・早く、現場到着や、活動をしなければならないという“あせり”を感じていた。	はい
・被害拡大が消防活動を上回っており“あせり”を感じていた。	いいえ
・周辺の野次馬などにより“あせり”を感じていた。	はい

b. 注意力が欠如していた

・1つの事象に集中し、他の事象への注意力を欠いた。	はい
・活動終息(鎮火等)や活動内容が些細だったため注意力を欠いた。	いいえ
・体調不良や疲れにより注意力を欠いた。	はい

c. 経験・知識が不足していた。

・活動内容が、自己の能力や技量を超えていた。	はい
・活動中に起こりうる危険について認知していなかった。	はい
・活動に対する経験が不足していた。	はい

d. 心身の不調があった。

・体調が悪かった。	はい
・悩み事があった。	はい

○装備・資機材について

e. 資機材の故障・不具合があった。

・装備・資機材自体に問題があった。	いいえ
・装備・資機材の使用方法が誤っていた。	はい
・装備・資機材の対処能力を超えていた。	いいえ
・必要とする装備・資機材がなかった。	いいえ

○活動環境について

f. 障害物や自然環境(雨・濃煙)によって視界がさえぎられた。

・障害物(建物等)のため周囲の状況が見えなかつた。	いいえ
・特異環境(煙、暗闇、降雨等)のため周囲の状況が見えなかつた。	いいえ

g. 行動しにくい環境だった。

・狭隘な場所であった。	いいえ
・暑かった(寒かった)。	いいえ
・野次馬が多かった。	いいえ
・現場周辺の地理に不案内だった。	いいえ

h. 足場が悪かった。

・足元が躊躇したり滑りやすかつた。	いいえ
・足元の強度が不足していた。	いいえ

○指揮・管理について

i. 適切な指示が得られなかつた(適切な指示を与えられなかつた)。

・活動指示が得られなかつた。(無線が通じない等。)	いいえ
・指示内容に誤り・偏りがあつた。	いいえ
・指示内容が実施困難であつた。(周辺環境に、隊員技量の把握に欠けた。)	いいえ

k. 関係者間の情報伝達・役割分担が不十分だった。

・隊員の連携が不十分だった。	いいえ
・隊員が不足していた。	いいえ

○その他

l. その他の理由があつた。

--

【事故発生後の取り組みについて】



○注意力欠如、焦り等の対策について

○装備・資機材の対策について

○活動環境の対策について

○指揮・情報伝達の対策について



車両を駐車させるには、(オートマチック車の場合)シフトレバーをPレンジに入れ、サイドブレーキをしっかりと引くことが当然であるが、気持ちの焦りと別の動作を行おうとしたために発生した事案である。